

研究



- ・ CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成
2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催
- ・ 人工知能研究推進センター2025年度第1回講演会「1%の変革が未来を創る
～生成AI時代のDX戦略～」を開催
- ・ 文部科学省研究振興局学術研究推進課長が本学を訪問
- ・ 公益財団法人小川科学技術財団から寄附金を受領
- ・ 株式会社日本自然発酵 鈴木社長、株式会社NHC 獨活山社長が本学を訪問
- ・ 令和7年度 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業に係る キックオフ
ミーティングを本学で実施
- ・ 第3回アカデミックサミットを開催
- ・ 社会実装研究コア（SIRC）設置に向けた説明会を開催
- ・ 「株式会社Arrowsmith」に岐阜大学発ベンチャーの称号を授与

CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成 2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催

【概要】

令和7年4月23日（水）にCMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクト研究助成2024年度成果発表会および2025年度採択通知書授与式を開催しました。

CMC元島アカデミーDEIB推進プロジェクトとは、（株）CMC総合研究所からのご寄附により創設した、女子生徒の理系進路選択支援、女子学生と女性研究者の就学・研究に係る助成、育児・介護のための補助を支援するための冠特定事業です。本事業の一部として、岐阜大学に所属する女性研究者が取り組む独創的、先駆的かつ社会貢献に資する研究に対して研究助成を行っています。

今回、2024年度に本研究助成事業として採択された研究者の成果発表および2025年度新たに採択された保健管理センター田尻下助教の採択通知書授与式を岐阜大学学長室にて開催しました。

成果発表会では、研究成果にとどまらず、今後の研究の展望など意見交換も行われました。（株）CMC総合研究所の元島代表取締役により励ましの言葉もいただきました。



左から吉田学長、田尻下助教、元島代表取締役



左から大藪副学長、田尻下助教、
(2024年度採択者) 村瀬教授・古山准教授、
元島代表取締役、吉田学長

人工知能研究推進センター2025年度第1回講演会 「1%の変革が未来を創る～生成AI時代のDX戦略～」を開催

【概要】

6月5日(木)OKB岐阜大学プラザにおいて、「1%の変革が未来を創る～生成AI時代のDX戦略～」と題し、本学人工知能研究推進センターの安野たかひろ客員准教授が講演を行いました。

安野客員准教授は、AIエンジニア、起業家、SF作家としての経験を持ち、講演の冒頭では、それぞれの職業においてアウトプットは異なるものの、「未来を描く」という共通点があったことを説明しました。また、AI技術により集まった意見を効果的に可視化し、さらに、集まった意見の集約を双方向のコミュニケーションにより改善していく実践方法などを紹介しました。



左から加藤教授、安野客員准教授、吉田学長



講演会の様子



講演会の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/6/16	中日	選挙でのAI活用 解説 ～岐阜大学人工知能研究推進センター 安野貴博客員准教授～
2025/6/16	岐阜	「AIで価値創造を」 ～岐阜大学人工知能研究推進センター 安野貴博客員准教授～

文部科学省研究振興局学術研究推進課長が本学を訪問

【概要】

6月26日に、文部科学省研究振興局から板倉寛 学術研究推進課長らが岐阜大学を訪問し、科学研究助成事業および創発的研究支援事業について意見交換を行いました。

本学の特徴である糖鎖生命コア研究所や獣医学教育・研究施設を視察後、学長室にて王副学長、松尾機構長を交えて、本学の教育・研究強化に対する取組を紹介するとともに、今後の国際連携や地方大学の在り方等について懇談しました。

その後は、本学の科学研究助成事業にかかる実績や学内支援・課題等について意見交換を行いました。さらに創発的研究支援事業の採択者とともに事業の今後について意見交換を行いました。

本学では今後も、総合知を活かした研究力を強化し、その強みをさらに伸ばすことで、地域の中核大学としての役割を果たすことを目指し、文部科学省などの機関との情報交換の場を積極的に設けてまいります。



板倉学術研究推進課長（中央）と吉田学長（右から2人目）、
王副学長（右）、松尾機構長（左）



意見交換会の様子（創発的研究支援事業）

公益財団法人小川科学技術財団から寄附金を受領

【概要】

10月31日（金）、岐阜大学学長室において、公益財団法人小川科学技術財団（理事長：小川 信也 様）から本学への寄附金贈呈式を執り行いました。

今回のご寄附は、財団設立40周年記念事業の一環として、岐阜大学基金の「産学連携推進基金」にご支援を賜ったものです。

贈呈式には、同財団から小川 信也 理事長、林 貴久 事務局長、愛知 浩介 様にお越しいただき、岐阜大学からは吉田 和弘 学長、王 志剛 副学長、本田 宗央 特任教授が出席しました。

式では、小川理事長から財団設立から40年にわたる歩みや、これまでの研究助成活動、さらに理事長ご自身が岐阜大学地域協力会の会長を務められた際のご縁や経験などに触れながら、地域とともに科学技術を育む重要性についてお話しいただきました。その後、吉田学長より謝辞を述べ、これまで同財団の研究助成を受けた本学教員への感謝とともに、寄附金を通じた地域科学技術の振興・人材育成への決意を表しました。

今回のご厚志は、産学官連携の一層の推進や研究成果の社会実装、次世代研究者の育成など、地域とともに発展する大学づくりのために大切に活用させていただきます。

公益財団法人小川科学技術財団の皆さまに心より御礼申し上げます。



集合写真（左から愛知様、林事務局長、小川理事長、吉田学長、王副学長、本田特任教授）



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2025/11/1	中日	小川科学技術財団が岐阜大に500万円寄附 産学官連携強化に向け
2025/11/4	中部経済	岐阜大に寄附金 創立40年記念で 小川科学技術財団
2025/11/4	日刊工業	小川科技財団、40周年事業 岐阜大に500万円寄附 産学連携や「刃物学」研究
2025/11/6	岐阜	科学技術研究に助成金 小川財団、26件計1615万円 ～工学部 船曳一正 教授～
2025/11/6	日刊工業	岐阜の研究者対象 今年度助成26件 小川科技財団 ～工学部 伊藤聡 教授～
2025/11/7	岐阜	岐阜大に500万円 小川財団が寄附 設立40周年記念

株式会社日本自然発酵 鈴木社長、 株式会社NHC 獨活山社長が本学を訪問

【概要】

11月12日（水）、岐阜大学に共同研究講座を設置している株式会社日本自然発酵の代表取締役社長・鈴木愛智さん、その親会社である株式会社NHCの代表取締役社長・獨活山英彦さんらに大学を訪問いただきました。

日本自然発酵は、酵素や発酵技術を活用した健康食品や調味料の研究・製造・販売を行う企業であり、NHCは自然食品、健康補助食品、化粧品などを幅広く展開する健康関連企業グループです。同社は大学院連合創薬医療情報研究科の上田浩研究科長、守川耕平准教授と共同研究を進めており、研究の進捗や今後の連携について意見交換を行いました。今回の訪問は、産学連携の強化と地域発の健康科学研究の発展に向けた重要な一歩となりました。



日本自然発酵のみなさんと



NHCのみなさんと

令和7年度 戦略的大学改革・イノベーション創出環境強化事業に係る キックオフミーティングを本学で実施

【概要】

1月7日、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 大学改革・ファンド室 河村雅之企画官をはじめとする4名が岐阜大学を訪問しました。

内閣府・BCGからは、本事業の概要や調査分析の説明があり、本学からは提案した取り組みの紹介を行ったのち、今後の実証事業の進め方について議論しました。

河村企画官は本学が提案したTRL(技術成熟度レベル)を用いた岐阜大学独自の共創研究アプローチに興味を示し、学長らと深い議論を行いました。

その後一行は、本事業に大きく関連し本学の特色あるセンターの1つである地域連携スマート金型技術研究センターを訪れ、学内における研究拠点及び環境整備の様子を見学しました。

施設見学後には、吉田学長、王副学長ら執行部と今後の政府による大学施策の検討に向けた意見交換会を実施しました。

本学は本事業を通して共創型社会実装大学への変革を一層加速させていきます。



地域連携スマート金型センター視察



意見交換会

第3回アカデミックサミットを開催

【概要】

1月9日、OKB岐阜大学プラザにて「第3回アカデミックサミット」を開催しました。本イベントは、大学執行部とJST創発的研究支援事業の採択者が意見交換・交流を行う場として実施し、次世代研究者や学生も参加しました。

当日は、2024年度（5期生）創発的研究支援事業採択者及び2022年度（3期生・ステージゲート対象）同事業採択者による研究紹介に続き、研究環境の改善をテーマに意見交換を行い「理想的な研究環境」「異分野融合」「研究加速」「大学への提案」を軸に、活発な議論が交わされたほか、コーヒブレイクやポスターセッションなどを通じて、学内研究者間のネットワークが広がる有意義な機会となりました。

岐阜大学は今後も、若手研究者が先導する科学の発展に向けて、研究支援体制の充実を図ってまいります。



意見交換会



集合写真

社会実装研究コア（SIRC）設置に向けた説明会を開催

【概要】

岐阜大学は2026年4月に、高等研究院において新たに【社会実装研究コア（Social Impact and Innovation Research Core（略称：SIRC（サーク）））】を設置します。

これに先立ち、3月16日（月）、SIRC構成員や学内関係者を対象とした説明会をTOIC岐阜サイト（愛称：OKB岐阜大学プラザ）で開催しました。当日は、Web参加者を含め約60名が参加しました。

説明会冒頭では、吉田学長よりこれまで本学が進めてきた研究力強化や、地域中核大学としての取り組みの振り返りと、今後、SIRCが大学改革の中心的な役割を担うことの説明がありました。大学全体での意識改革と協働の必要性を呼びかけました。

続いて、王副学長からSIRCの設置趣旨と組織概要について説明がありました。大学内外の知を統合し、社会課題や企業課題に基づく社会実装研究とその成果を再び基礎研究へ循環させる本学独自の取り組みを紹介し、SIRCにおいてもこうした循環モデルを目指すことの説明がありました。

質疑応答では、SIRCの支援体制や学生の参画のあり方などについて活発な意見交換が行われました。学長からは、大学全体が一体となり、研究者と支援組織が協働できる環境整備を進めていく考えが示されました。

今回の説明会は、SIRCが担う大学改革の方向性と、岐阜大学が目指す「キャンパスまるごと共創型社会実装大学」の実現に向けたビジョンを共有する機会となりました。

SIRCは、"社会の課題を未来の価値へ"を合言葉に、教育・研究・社会実装を三位一体として進めてまいります。



学長挨拶



王副学長による概要説明



質疑応答の様子



集合写真

「株式会社Arrowsmith」に岐阜大学発ベンチャーの称号を授与

【概要】

岐阜大学では、研究成果等を社会へ還元することを目的に「岐阜大学発ベンチャー」の認定を行っております。

このたび、新たに株式会社Arrowsmith（以下、Arrowsmith）を、岐阜大学発ベンチャーとして認定し、3月18日（水）に称号授与式を開催しました。

Arrowsmithは、薬剤耐性菌や難治性細菌感染症に対する新しい治療法「ファージセラピー」を社会実装するため設立された岐阜大学発のベンチャー企業です。「世界中の人々に安全で効果的なファージセラピーを届け、細菌感染症のない未来を創造する」というビジョンのもと、これまでの産学連携による共同研究成果を基盤に、複数の大型の資金調達を行い、革新的な治療方法の研究開発に取り組んでいます。

授与式には同社代表取締役で、岐阜大学の元教員でもある安藤弘樹氏が出席し、吉田学長から岐阜大学発ベンチャーの称号記が手渡されました。

称号授与後の懇談では、研究開発や起業に至るまでの経緯、今後の事業展望等について意見交換が行われました。吉田学長からは「今後は糖鎖生命コア研究所やOne Medicineトランスレーショナルリサーチセンターといった本学の研究拠点との連携や、岐阜地域との関係継続・発展を期待しています」との言葉が贈られました。

本学における大学発認定ベンチャー企業は、今回で累計13社となりました。岐阜大学は今後も、研究成果を社会へ還元するため、ベンチャー支援も含めた取り組みを一層推進してまいります。



集合写真

（左から）王副学長、安藤代表取締役、吉田学長